

車いす修理&メンテナンス技術講習会

神奈川工科大学車いす修理屋（KWR）

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030 神奈川工科大学内

助成事業の概要

目的は3つある。1、タイにコンテナ船で送った車いすを点検、修理、輸送による不具合があるか情報収集すること。2、現地の高校生・大学生に修理技術を伝え、現地の方々のみで修理が出来るようにすること。3、車いす利用者に車いす適合を行った上で車いすを寄贈すること。車いすの正しい使い方をすることで、骨の変形など今後の生活に支障をきたすような副作用を防止する。

今回は8月31日（水）－9月4日（日）にタイで実施。活動内容は日本、タイのボランティアが集まり、現地で車いす修理を行った。タイには209台寄贈した。

活動2日目に利用者のお宅訪問をし、車いすを寄贈した。総勢で5名に寄贈した。

活動3日目に、実際に利用者へ車いすを寄贈した。総勢で15名、10団体の利用者に寄贈した。

その際FWSが中心となり15名に車いす適合をし、利用者に合う車いすを寄贈した。

事業の成果

車いすはコンテナ船で輸送した209台を寄贈することが出来ました。現地の方への修理講習は、ジェスチャーや通訳によって、修理の方法を伝えた。

活動1日目は現地の高校生・大学生と日本から届けられた車いすの点検、修理などを行っ

た。

活動2日目は車いす利用者のお宅訪問をし、車いすを寄贈しました。現地で車いすが使われている環境を体験、見学することが出来た。利用者の使用環境、身体状況に適応した車いすの選択・及び身体への総合評価を行い利用者に渡すことが出来た。事前に利用者の身体状況や疾患など病院のスタッフから教えていただき車いすを何台か準備し、利用者に渡していった。

活動3日目は車いす利用者、またはその身内の方々を含め15名、10団体の方々会場に来た。

一例として、片足の無い方が車いすに乗り続けることで足の筋力が弱くなってしまふ恐れがある。そのような方には、車いすを長く乗り続けられないようにと伝えている。

本プロジェクトは、高校生は勿論、輸送会社や現地のボランティアの方々など多くの方が関わっている。私達大学生ボランティアは、工業高校生に修理技術を伝えること、彼らが一生懸命清掃・修理した車いすを、無事に現地の利用者まで届けられるように活動している。

さらに現地まで赴いて、実際にどのような方に届いているのか調査する。今回のように、一人でも多くの方が身体に合う車いすに乗ることが出来るように活動をしている。

現地の利用している方の環境を実際に見たり、体験したりすることでプロジェクトの参加者は、この活動を継続することの必要性を感じ、また寄贈後の正しい車いすの使い方などの知識提供をすることにより利用者やその身内の

人に対するフォローや車いす適合の難しさなど今後の課題も実感することが出来た。

■ 成果の広報・公表

- 1、タイの活動の写真を全社協アジア研修生の方々（韓国、タイなど）に配信。
- 2、新潟医療福祉大学FWSは、11月に学会で発表。
- 3、神奈川工科大学KWRは、1月学内で発表。
- 4、12月10日に都立北豊島工業高校で発表。
（都立蔵前工参加）
- 5、2月に韓国（ソウル、釜山）を訪問して発表。
- 6、KWRのFacebookページにて活動写真掲載。

■ 今後の展開

今後もサコンナコン病院には車いすを送り続ける。サコンナコン工業高校生や現地大学生が、サコンナコン病院が管理している車いすを点検することができれば、我々が現地に赴かずに、届いた車いすを点検することができる。

修理や適合など経験を積みデータを集め、今後の諸外国で活動する際、どのような車いすを求めているのか、患者の症状の割合など、適合の参考になるようにしたいと考えている。

従来は活動では、車いすの修理と寄贈のみを目的としていたが、適合までを目的としたことで今後のプロジェクト活動の目的を大きく変えることができた。私達が実際に車いすの適合を行うことで、利用者の今後の生活に支障をきたすような新たな病気を防止することができる。さらに車いす適合のほかにも車いすの正しい使い方を指導することで現地の人の車いすに対する意識の向上につながり、ただ単に車いす寄贈するよりも、さらに意味のある「寄贈」ができるのではないかと考

えた。

今後も利用者の属性と車いすの種類データを収集し、諸外国での活動において、現地で必要とされている車いすの種類や属性を認識することができる。まだまだ、アジアもしくは世界では車いすが必要とする人がいる。私達が実際に現地へ赴き、直接利用者の車いすを適合することや使い方を指導することで、その方の生活を少しでもサポートすることが出来るのではと考えている。